

6. その他のバイオマス

6-2. 地域における原材料の量の把握

6-2-4. 廃食用油

総合資源エネルギー調査会石油分科会石油部会燃料政策小委員会規格検討ワーキンググループの報告（平成15年）によれば、国内の需要量は、約190万トンで、ボリュームベースでは約200万キロリットル強に相当すると推計されている。平成10年度政策科学研究所の推計では、家庭からの場合は廃油率が使用量の40%、外食産業の場合は廃油率が30%、食品製造業の場合は廃油率が使用量の10%であり、これをもとにおよそ36万トンから46万トンとしているが、40万トン以上はあるのではないかと結論づけている。ここでは、40万トンとして計算する。

$$\begin{aligned} \text{一人あたり廃食用油} &= 40 \text{ 万トン} / \text{年} / 12762 \text{ 万人 (平成15年10月1日人口)} \\ &= 0.00313 \text{ トン} / \text{年} / \text{人} = 3.13 \text{ kg} / \text{年} / \text{人} \end{aligned}$$

ただし、廃食用油のある割合は、バイオディーゼルとして燃料化されており、排出量のすべてをこの基本的発熱量パラメータを適用して計算することはやや無理があるが、とりあえずの計算という位置づけとする。